

「夜須高原スキーキャンプ」 【実施報告】

- 1 趣 旨 冬季期間の代表的なスポーツであるスキー体験を通して、異年齢の仲間とともに切磋琢磨しながら、達成感やコミュニケーション能力を高めるとともに、スキーのもつ楽しさや面白さを感じられるようにする。また、インストラクターや職員との交流及び施設利用を通して、礼節やマナーを重んじる態度を育てる。
- 2 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家
- 3 共 催 (一財)サンビレッジ茜
- 4 後 援 福岡県教育委員会
- 5 期 日 第1回 令和4年11月 5日(土)～11月 6日(日)
第2回 令和4年12月 3日(土)～12月 4日(日)
- 6 対 象 小学校4～6年生【20名程度】
- 7 会 場 国立夜須高原青少年自然の家 〒838-0202 福岡県朝倉郡筑前町三箇山1103
(一財)サンビレッジ茜 〒820-0711 福岡県飯塚市山口845-38
- 8 参加者 【第1回】参加人数：7名(小4：1名、小5：6名)
【第2回】参加人数：7名(小4：1名、小5：6名 ※内1名12/3のみ参加)
- 9 日 程
 - 11月 5日(土) [人工芝スキー実習：サンビレッジ茜、生活体験活動：夜須高原青少年自然の家]
(午前)「サンビレッジ茜集合」 開会式、アイスブレイク、目標設定、スキー実習①
(午後)昼食、スキー実習②、バス移動
(夜間)夕食・入浴、振り返り、目標設定、レクリエーション、ナイトハイク
 - 11月 6日(日) [生活体験活動：夜須高原青少年自然の家、人工芝スキー実習：サンビレッジ茜]
(午前)朝食、バス移動、スキー実習③
(午後)昼食、スキー実習④、振り返り、アンケート記入 「サンビレッジ茜解散」
 - 12月 3日(土) [人工芝スキー実習：サンビレッジ茜、生活体験活動：夜須高原青少年自然の家]
(午前)「サンビレッジ茜集合」 開会式、アイスブレイク、目標設定、スキー実習①
(午後)昼食、スキー実習②、バス移動
(夜間)夕食・入浴、振り返り、目標設定、レクリエーション
 - 12月 4日(日) [生活体験活動：夜須高原青少年自然の家、人工芝スキー実習：サンビレッジ茜]
(午前)朝食、バス移動、スキー実習③
(午後)昼食、スキー実習④、振り返り、閉会式

10 活動の実際



【開会式】



【スキー実習】



【全体集合写真】



【振り返り・目標設定】



【ナイトハイク】



【全体集合写真】

11 感想

(第1回)

- 友達と仲良くなれたり、スキーができるようになったりしてとってもよかった。
- 友達や先生が優しくよかった。
- わからないところを一つ一つ教えてくれて、きれいにできた。
- 仲良くしてくれたし、私は恥ずかしがりやで、それを励ましてくれた。
- 全部が楽しかったからまた来たい。
- 少し失敗が多かったのも、もっとうまくなれるようがんばりたい。
- 友達や先生が優しく面白くて、私もそんな人になりたいなと思いました。友達が増えてうれしかったです。

(第2回)

- とても分かりやすく教えてくれて、上手になることができた。
- いろんなことを話してもらえたからよかった。
- 困っていたら助けてくれました。
- 教え方やイベントも全部楽しかった。
- できなかったことも挑戦すると思ったより楽しくて、すごく自分のためになったなと思いました。

12 成果

- インストラクター（サンビレッジ 茜）の指導のもと、グループ指導や個別指導で基礎から一人ひとりに対して丁寧に指導していただいた。子どもたちに多くの励ましや賞賛、的確なアドバイスを通じて、参加者はスキーを楽しみながら、より高い技能習得を目指して、意欲的に実習を積み重ねることができた。また、夜須高原職員も指導に入ることで、習熟度別のきめ細やかな指導を行うことができ、実習の後半では、個人の技能の大きな伸びを見ることもできた。
- 参加者が少人数であったこともあり、互いにより多く話しをする機会を設けるなど、活動を通して仲間づくりを意識化したことで、次第に協調性、思いやりなどが芽生え、良好な人間関係を構築することができた。
- 挨拶、話を聴く態度、感謝、時間厳守などの基本的な礼節やマナーを意識させることで、子どもたちが自ら気付いて行動できるようになり、人格の形成に繋がった。

13 課題

- 参加したいと思えるようなプログラムの工夫や、対象の明確化など、参加者の興味を喚起したり、ニーズに応えたりすることが必要である。
- 広報チラシを各市町村教育委員会宛てにメール送付での通知や、ホームページでの掲載などにしたため、子どもたちの目には直接触れることがなく、参加人数が少なかった。今後は、保護者からの貴重な意見を受け、メール送付での通知及び近隣の学校に関しては、児童数分を印刷して紙媒体で配布するようにしていく必要がある。
- 単発な事業では参加人数が少ない現状である。今後は、受益者負担を視野に入れたバジテストを実施していくプログラム内容に改善するなど、参加者が目標をもてる連続性のあるシリーズ事業の実施に向け、案を模索していく必要がある。
- 他施設との連携事業なので、企画・準備の早い段階から連絡・調整・情報交換を綿密に行っていく必要がある。
- 新型コロナウイルス感染症及び荒天時などで、実習不可及び中止になった場合における動きやプログラム内容について、関係団体と事前に確認しておくようにしたい。